

京都府農山漁村伝承技能登録認定式

平成29年度の丹後地域の農山漁村伝承技能登録者（農業分野）に新たに下記の9名が登録され、丹後地域の農業分野の登録は80名となりました。

今後のご活躍を期待いたします。



氏名(敬称略)	登録技能名	技能の概要
岡田 博美(伊根町)	味噌製造	地域の昔ながらの味噌加工、地元産酒米の使用、京野菜とのコラボ
三野 悟(伊根町)	採卵鶏飼育	孵化直後の雛を導入し育成、地元産餌の給餌
大原 正暉(宮津市)	採卵鶏飼育	地元水産加工副産物の加工給餌、環境衛生対策
矢野 吉乃(宮津市)	ストック八重鑑別	子葉鑑別により、高い八重鑑別率
梅田 爲信(京丹後市)	伏見トウガラシの栽培	20年間地域の部会のリーダー、一本仕立て栽培
太下 琴美(京丹後市)	海藻加工の伝承	冷凍技術で、減塩、鮮度の高い加工、命の里地区の加工所のリーダー
平林 衛(京丹後市)	ジャージー牛飼育・乳製品製造	全国的に珍しいジャージー種乳牛の飼養、アイスクリーム等乳製品の製造
三宅 保(京丹後市)	エビイモの栽培	20年近く地域の部会のリーダー、新品種導入への取り組み
山添 美智恵(京丹後市)	丹後ばら寿司の伝承	丹後地域を代表する郷土料理であるばら寿司の伝承者

TANGO 丹後普及センターだより

第27号
(平成30年2月発行)
〒627-8570
京都府京丹後市峰山町丹波855
京都府丹後広域振興局農林商工部
丹後農業改良普及センター
電話0772-62-4308
FAX0772-62-5894
丹後普及センター 検索



担い手の確保育成や経営力向上等の支援

農業の基礎知識を伝えるための「丹後農業の担い手育成講座」を開催するとともに若手の新規就農者を定期的に巡回して、関係機関と協力しながら継続的なサポートを行っています。これからも新規就農者が少しでも早く地域に定着できるような活動を行っていきます。

また、丹後地域農業士会の青年農業士と協力して「農業経営スキルアップセミナー・若い農業者のつどい」を毎年開催しています。平成29年度は、中丹地域で遊休農地解消や新規就農者を支援している「若い衆でやろかい」と水稻の多品目経営及び籾殻の6次産業化に取り組んでいる「(株)丹波西山」を訪問し、地域づくりへの関わり方や経営の法人化などを学びました。

＜お詫びと訂正＞
平成29年8月に発行しました「丹後普及センターだより第26号」についてですが、中とじの「丹後のいきもの」で掲載されています内容の一部に誤りがありました。正しくは下記のとおりです。
(誤) ミダレカクモンハマキ (ハマキガ科) → (正) シリグロハマキ (ハマキガ科)
訂正するとともにお詫びいたします。

平成29年度
京都府農業士
退任者の皆さん
お世話になりました

【女性農業士】
三野 千恵子さん(伊根町) **養鶏**

【青年農業士】
日方 洋さん(京丹後市丹後町) **水稻、野菜**

米田 督史さん(京丹後市久美浜町) **施設野菜**

重点計画3カ年の活動報告

丹後農業改良普及センターでは、平成27～29年度までの3年間、普及計画を作成し、普及活動に取り組みました。今号は、その活動内容を紹介いたします。



おいしい 丹後米の推進



栽培講習会の様子

丹後産コシヒカリをもっとおいしくするため、登熟歩合を左右する籾数と白米中のタンパク質含有率を制御する必要があります。

そこで、幼穂形成期の葉色や茎数などの生育量に応じた精密な施肥管理技術の実証、生産者の取り組みを支援しました。

食味計による分析では、一般的な管理よりも良好な結果を得ており、食味向上技術として期待されます。

このほか、府内の酒造メーカーから要望量の多い酒造原料米（府内生産量のおよそ半量が丹後産!）の収量・品質の安定、飼料用米の低コスト多収栽培の検討など、多様な稲作技術の支援を通じて、稲作農家の皆さんと地域の水田営農を応援する活動を展開しました。

法人育成による 地域活性化の取り組み



経営会議での意見交換

将来にわたって地域の農地を守っていくために設立された、2つの集落営農型農業法人の経営・運営に対して総合的に助言、支援を行ってきました。

ひとつは京丹後市大宮町の法人A。経営の中心となっている水稻品目（コシヒカリ・京の輝き・飼料用米）の安定生産を支援。他に小ギクや加工用キャベツの栽培技術支援を重点的に行いました。

もうひとつは京丹後市久美浜町の法人B。法人Bは、水稻と大規模な黒大豆枝豆を中心とした野菜の生産指導を行うとともに、労力分散、コスト削減等の経営的助言も行っています。

今後も、その他地域の農業法人において、栽培技術などの支援を行っていきます。

京野菜などの 生産拡大を支援



九条ねぎ現地互見会の様子

丹後地域では九条ねぎ、みず菜、紫ずきん他、多くの京野菜が栽培されています。

その中で、九条ねぎのハウス栽培は夏季収穫の作型の安定生産が課題となっていたため、夏季栽培に適する品種の選定試験と現地実証ほを設けての検討を行いました。また、紫ずきんは選別作業の省力化と品質統一を目指し、久美浜町に導入された色彩選別施設の効率運営に栽培面などから支援しました。

小ギクは、7月～10月までの長期出荷を奨めるため、新品種の導入試験を支援しました。結果、13名の農家が新たに長期出荷に取り組むことになりました。



出荷目揃い会の様子

開発農地 基幹品目の創出

安定出荷に向けた支援のため、業務用キャベツでは、昨年度実需者の求める契約数量を達成することができなかった要因の対策を中心に、また出荷期間拡大のための品種選定試験等も行いました。西洋ニンジンでは、生産者間の収量差を是正し、大規模指向農家にネコブセンチュウ等病害虫の課題解決に向けた支援を行いました。

また、小玉スイカでは、草勢維持管理と病害虫対策を中心に、秀品率向上のための支援を行いました。

丹後産茶 品質向上への技術支援



摘採機での収穫の様子

丹後産茶の生産安定と品質向上を目指し、府農林センターや関係機関と連携したタスクチーム活動に加え、適切な防除・施肥・整枝や製茶指導など様々な技術支援を行いました。

生産者の努力と相まって、年々、産地全体のお茶の収穫量や単価の向上が見られ、平成29年度は過去最高の販売高を上げることができました。また、実需者からの評価も年々高まっています。

一方で、茶園土壌や樹勢の診断結果から、丹後地域の茶園にはさらなる改善の余地があることも明らかになりました。今後もそうした改善を進めつつ、安心・安全なお茶を生産するための「宇治茶GAP」や実需からの要望を踏まえた茶生産を支援していきます。

有機農業のための 技術の蓄積と向上



生育診断講習会の様子

丹後地域水稻有機農業研究会と共に活動を行い、生育調査や生育診断講習会、互見会を実施するなど、丹後地域での研究会員の輪づくりや技術蓄積に努めました。

この結果、研究会の会員数はこの3年で11名増加し、安定的に初期除草ができる方が増加しました。しかし、除草以外の課題が新たに浮き彫りになるなど、技術や知識について蓄積が必要です。

一方、新たに有機農業を希望する方への支援体制を構築するため、有機農業アドバイザーとともに有機農業での経営や栽培に関する事例集を完成することができました。今後も持続性の高い農業生産方式に関する技術の蓄積と向上を目指して、皆様の活動を支援していきます。